

IGAP とは

世界保健機構「てんかんその他の神経疾患に対する領域横断的グローバルアクションプラン 2022—2031 の実務指針」である。

背景

IGAP とはなに？

・IGAP は、神経学的症状を効果的に治療し、てんかんその他神経疾患の患者の生活を世界規模で改善するために、WHO が 10 年前に打ち出したロードマップである。この指針は、5 つの戦略目標と 10 項目のグローバル目標から構成されている。

IGAP はなぜ重要？

- ・てんかんその他神経学的症状に対する初の世界規模の行動計画
- ・世界保健総会で 194 カ国すべての加盟国が満場一致で承認
- ・他に類を見ない、多分野にまたがり、人を中心に置き、エビデンスにも配慮し、人権を尊重し、人生の各段階にあったアプローチを採用
- ・てんかんに特化し、「てんかんへの公衆衛生的アプローチを強化する」目標を掲げる

IGAP は、私たちにどのように関係している？

・IGAP は、世界でのてんかんのある人々や関わる人々の使命、ニーズ、願いに直接語りかける。私たちの活動を後押しし、その導き手となり、また活動を増進するパワフルなツールである。この実務指針で私たちは、最適な形で IGAP を利用するための世界各国の IBE 支部、てんかんコミュニティを後押しするための一連の行動案を提示している。

10 年目標

「神経学的障害による **社会的偏見、影響、負担** を少なくし、関連する死亡率、罹患率、障害を低くし、神経学的障害の患者、介護者、家族の **生活の質を改善する。**」¹

頭字語: EEG=脳波、LMIC=低・中所得国 NCD = 非感染性疾患、PWE=てんかん患者、SDGs=持続可能な開発目標

IGAP の具体的内容

戦略課題 (SO) / グローバル目標 (GT)	>てんかんコミュニティにとっての重要性 2	✓IBE 各支部に対する行動案
SO 1: 政策上の優先順位を高め、ガバナンスを強化する	>世界中で 5,000 万人以上がてんかんを患っており、その 80%が低所得国の国民である	✓政策提言行動 (ポジションペーパー、レターの作成・発行) を提案するための IBE アドボケート・ツールキット ⁶ を活用し、政府機関の政策実現責任を明確にする
GT 1.1: 75%の国が神経疾患に関する国全体の計画/政策/戦略を策定している	> てんかんは、神経障害の上位 5 つの原因の 1 つである > てんかん患者の大多数が治療を受けていないか、十分な治療を受けていない状況にある	✓ てんかん啓発キャンペーンのために国ごとに支部を団結させる
GT 1.2: 100%の国が神経疾患に関する啓発/アドボカシー・プログラムを実施している	> てんかんが治療可能な脳疾患であることに対する人々の認識が低いのが現状である > 政府の取り組みが不十分である (低所得国で国家計画を策定しているのは 30%未満にとどまっている)	✓ 主要なステークホルダー (PWE、省庁、WHO、ILAE) と連携し、国ごとに IGAP の優先課題を決定する ✓ 神経疾患分野内、非感染性疾患分野内、疾患分野を横断してパートナーシップを構築する

<p>SO 2：実効性があり、タイムリーで、状況に機敏に反応する診断、治療、ケアを提供する</p> <p>GT 2.1：75%の国がユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）給付パッケージに神経疾患を組み入れている</p> <p>GT 2.2：80%の国が神経疾患の必須医薬品・必須技術を提供している</p>	<p>➤ てんかん治療の隔たりは依然として大きい（多くの低中所得国で75%以上）</p> <p>➤ 抗けいれん発作薬は価格が非常に手頃で（1人あたり年間5ドル）、効果がある（てんかん全体の70%に有効）</p> <p>➤ 神経学分野の医療従事者が不足しており（低中所得国では10万人あたり0.1人）、診断ツール（脳波測定）が欠けている</p>	<p>✓ 政府機関の政策実現責任を明確にするための政策提言行動</p> <p>✓ 教育介入（地域の医療従事者、教師、伝統的な治療法の施術者、一般市民等に対する）を通じて医療体制のキャパシティビルディングを図る</p> <p>✓ 現地の ILAE 支部と連携する</p>
<p>SO 3：推進と予防のための戦略を実施する</p> <p>GT 3.1：80%の国が、機能する予防／脳の健康促進プログラムを1件以上実施している</p> <p>GT 3.2：神経疾患予防の世界的目標が達成されている</p>	<p>➤ てんかんの25%は予防可能²</p> <p>➤ 予防可能な原因には、脳卒中、感染症（髄膜炎など）、出生外傷、その他の脳損傷が含まれる</p> <p>➤ 脳の健康³と発達を促進することが、転帰と生活の質の向上につながる</p>	<p>✓ てんかん予防について啓発活動を行う（キャンペーン、教育活動）</p> <p>✓ より広範な政策対話の中にてんかんを位置付ける（国連SDGs⁷、WHOのNCDアジェンダとの相互連携を確立する）</p>
<p>SO 4：研究とイノベーションを促進し、情報システムを強化する</p> <p>GT 4.1：80%の国が神経疾患の指標を日常業務として収集している</p> <p>GT 4.2：神経疾患に関する世界の研究が二倍になる</p>	<p>➤ ほとんどの国で、てんかんに関する信頼できる疫学データが欠けている</p> <p>➤ 現在ある研究のほとんどは、てんかん患者の声を反映していない</p> <p>➤ 医学的パラメータだけでなく、生活の質や実体験を表す指標が必要である</p> <p>➤ 満たされていないニーズに対処し、インクルージョン・ギャップを縮小するうえで、こうしたデータの作成は不可欠</p>	<p>✓ 自分のコミュニティを知ろう！ニーズアセスメントを行い、本当に優先すべきもの、本当に満たされていないニーズが何かを理解する</p> <p>✓ IBEが近く実施するグローバルエビデンスサーベイに参加する</p> <p>✓ 他のIBE支部と、互いの知識と研究活動などのベストプラクティスを（IBEナレッジハブを介して）共有する</p> <p>✓ 研究資金の増額を求めて政府に働きかける</p>
<p>SO 5：てんかんに対する公衆衛生アプローチを強化する</p> <p>GT 5.1：てんかんサービス受給者を50%拡大</p> <p>GT 5.2：80%の国が差別的な法律を廃止している</p>	<p>➤ てんかんに関係した社会的偏見は社会のあらゆるレベルに存在し、生活の質と周囲の人々との良好な関係を損なっている</p> <p>➤ てんかんをめぐる神話、誤った見方、誤情報が蔓延しており、医療を求める上で大きな障壁となっている</p> <p>➤ てんかん患者に対する社会的偏見を根絶し、人権を守るために、差別的な法律を撤廃しなければならない</p>	<p>✓ WHOとすべての加盟国は、このてんかんに焦点を当てた目標を達成することを公的に表明している。そのことを最大限に活用する！</p> <p>✓ 差別的な法律に関する啓発活動を行い、そのような法律に反対する政策提言を行う</p> <p>✓ IBE社会的偏見軽減ツールキット⁶を使って（学校、職場などへの）介入を行う</p> <p>✓ ソーシャルメディアやキャンペーンで使用できる実体験集を構築する</p>

IBE の IGP への取り組み

• IBE は、IGAP と連携し、戦略的計画 2022-26⁴ を策定しました。

この計画は、1) 政策提言／啓発、2) 知識創造、3) キャパシテビルディング、4) 強力なパートナーシップに重点を置いている。

• IBE は、「てんかん患者の 100%が生活の質の向上を実感する」ことを目指し、IGAP を支援するてんかんカスケード目標⁵を拡大した。

• IBE は WHO てんかん技術概要²に寄稿している。これは、IGAP の技術的補足として発表された。

• IBE は IGAP と連携し、IBE の看板となる 3 つの主要プロジェクトを 2023 年に開始する。

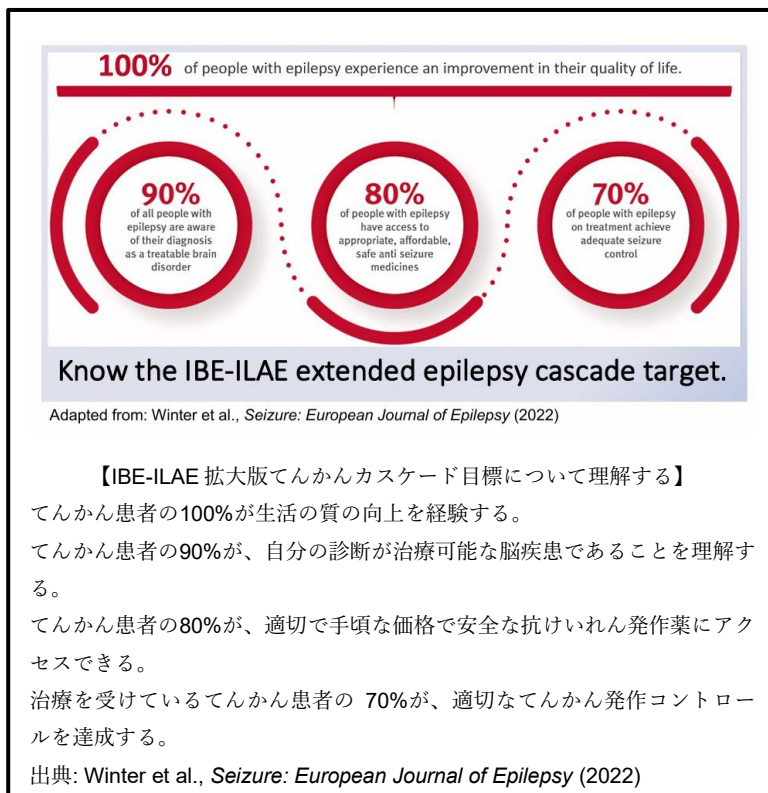
✓ IBE グローバル・アドボカシー・アクション – 特定の地域に

とどまらない政策提言活動

✓ IBE INVOLVE – すべての活動にてんかん患者を参加させる

✓ IBE ナレッジハブ – IBE 支部どうしをつなぐ

• IBE は、ILAE、WHO、OneNeurology など、様々な団体と緊密に連携し、IGAP の成功を目指す。



覚えておくべき重要なポイント:それぞれの支部のために IGAP を活用しよう!

- IGAP は、てんかんにおけるインクルージョン・ギャップ、治療、予防、研究それぞれの空白を埋める世界的使命を負っている。
- IGAP は、政策提言課題を支援する非常に有効なツールであり、政策立案者に政策実現責任を課す鍵となる。
- IGAP は全体を包含する枠組みの役割を果たす。それぞれの国、支部、コミュニティにとって最も重要な要素を活用して、独自の IGAP を創り上げる。
- IGAP は始まりに過ぎない。世界の政策論議の中心にてんかんを置くために、IGAP を補う補完的政策枠組み (WHO の NCD アジェンダ、国連 SDGs⁶ など) の利用を検討する。
- IGAP を採択しても、実施されたことにはならない。目標を達成するため、今こそ掲げた目標を行動に移さなければならない。

References & Tools

- (1) Draft WHO Intersectoral Global Action Plan on Epilepsy and Other Neurological Disorders 2022 – 31
- (2) Improving the lives of people with epilepsy: a technical brief.
- (3) Optimizing brain health across the life course: WHO position paper
- (4) IBE Strategic Plan 2022 – 26
- (5) IBE Editorial |The WHO intersectoral global action plan and epilepsy cascade target: Towards a roadmap for implementation
- (6) IBE Advocate's Toolkit ; IBE Stigma Reduction Toolkit
- (7) The United Nations Sustainable Development Goals 2